

研修で  
学校が  
変わる

# 外国語・外国語活動支援員研修 ワークショップ① まとめ

令和3年6月21日(月)

Web会議による遠隔研修(各校)



## 「小学校外国語・外国語活動支援員の役割と 担任と連携した授業づくり」

講師 大谷 みどり 氏(島根大学 教授)

### 【研修のねらい】

■ 小学校外国語・外国語活動支援員の役割について理解し、担任との効果的な連携に活かす。

### 担任・支援員の役割とチームティーチング

#### ○学級担任の役割

- ① クラスの実態に合わせた活動計画の作成と授業展開を考える
- ② 他教科との連携を考える
- ③ 児童へ安心感を与える
- ④ コミュニケーションのモデルを示す
- ⑤ 主に態度面を評価する

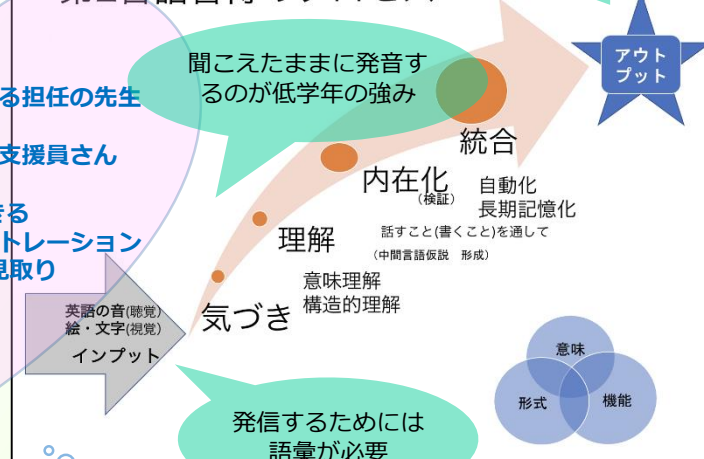
#### ○専科教員やALT、英語が堪能な地域人材等の役割

- ① 外国語指導の観点から、活動計画と授業展開を考える
- ② 英語のインプットを与える
- ③ 適切なフィードバックを与える
- ④ 主に「知識・技能」「思考・判断・表現」の面を評価する
- ⑤ 異文化理解の点からの指導

子供たちをよく知っている担任の先生  
と  
英語をよく知っている支援員さん

T.T.だからできる  
・やりとり ・デモンストレーション  
・丁寧な子供の見取り

### 第2言語習得のプロセス



長期休業等も活用しながら、  
打ち合わせの工夫を

お互いの強みを生かしながら、子どもたちに英語を学ぶ  
楽しさ、英語でのコミュニケーションの楽しさを

### 明日への想い(支援員)

・支援員に求められていることが具体的にわかり、大変参考になりました。児童が理解できるように、話す速さ、ジェスチャー、区切って話すなど工夫して伝えていきたいと思ひます。

・インプットよりアウトプットが多いように思うので、言えない子が言えないままアウトプットを求められる状況になっているように思ひます。インプットの重要性をもっと意識して授業の中に取り入れていけたらと思うので担任の先生と相談してみたいと思ひました。

・担任の先生と連携した授業というのはなかなか打ち合わせができない現実の中、支援員を始めてからずっと気になるテーマでした。今回、大谷先生も支援員をされていたということで実際のところも聞けて、大変参考になりました。

### 明日への想い(ワークショップ①)

・外国語活動の際には、子どもに英語の音に慣れてほしいと思ひ、シャワーを浴びせさせるように英語を話していましたが、これからは、「ゆっくり、はっきり」も意識したいと思ひました。学年でも今日の研修の情報を共有して足並みを揃えて進めていきたいです。

・言語習得プロセスを学ぶことで、授業の組み立てに役立てることができると学びました。まずは大量のインプットを子どもの興味のあるものにし必然性をそこにつけることが大切だとわかりました。

・授業後のふり返りで、指導の評価や改善方法について支援員さんの意見をもらいたたいと思ひました。また、児童の学習状況について、気づいたことや発見したことを共有することで、学級経営につなげていきたいと思ひました。